

学期レポート2006年秋学期(9月4日~11月9日)



第一期生 太田琢磨

秋学期開始

新入生がたくさん私の寮の部屋の周りに引っ越してきた。すでに周辺の木々は紅葉を始めており、あと少しすれば美しい紅葉が見られる季節になるだろう。日本の新学期が春に始まることから、紅葉が始まる季節に新学期が始まるというアメリカの学期スケジュールは、前もって知っていたものの、とても新鮮に映った。

今学期は、いよいよ私の留学目的である情報保障の調査が始まることとなった。また、英語はリーディングとライティングのみを継続して受講をすることになった。それに加え、アメリカ手話のクラスも一つ受講した。今学期は全部で18コマという大量の授業を受講することになった。

9 ⁰⁰	Independent Study	9:00-9:50 Speaking (LBJ)	Meeting Dr. Kevin	9:00-9:50 Speaking (LBJ)
10 ⁰⁰		AMERICAN SIGN LANGUAGE II (60-3635)		AMERICAN SIGN LANGUAGE II (60-3635)
11 ⁰⁰			Univ of Rochester Interview (University of Rochester)	
12 ⁰⁰				
13 ⁰⁰				
14 ⁰⁰	14:00-14:50 NONFICTION READING II (60-3237)	14:00-14:50 NONFICTION READING II (60-3237)	14:00-14:50 NONFICTION READING II (60-3237)	14:00-14:50 NONFICTION READING II (60-3237)
15 ⁰⁰	15:00-15:50 WRITING ii (60-2500)	15:00-15:50 WRITING ii (60-2500)	15:00-15:50 WRITING ii (60-2500)	15:00-15:50 WRITING ii (60-2500)
16 ⁰⁰				

Independent Study

この授業は私の情報保障の調査のためにもうけられた科目である。今学期の課題は、ロチェスター工科大学 (RIT)、国立聾工科大学 (NTID)で聴覚障害者支援に関わっている人々へのインタビューを行うこと、大学近隣にある大学へ情報保障に関するインタビューを行うこと、そして一週間に一度与えられる文献を読みその中から自分の思う3つのレポートを書くという、テーマであ



いつもお世話になっている、RITの図書館

る。 毎週行ったインタビューでは、ロチェスター工科大学の情報保障の情報保障システムをより深く知ることができ、1000人以上の学生に対してどのように通訳を派遣しているのかということを知ることができた。それだけでなく情報保障以外の学生支援サービスの成り立ちやそれに関わる教員の養成についても、いろいろ聞くことができた。これらのことから、今後私がより具体的に何を調査していくべきなのかを考える貴重な機会となった。それに加えて、近隣の大学訪問はとても驚かされることばかりであった。これまでの私の持っていたアメリカの大学のサポート体制のイメージを大きく覆した。アメリカであれば、ほとんどの大学で情報保障が受けられると考えていたのであるが、実際のコーディネータの話を知ると、通訳者を一人捜すだけでも大変な苦勞をしていることがわかった。それだけでなく、学生のカウンセリングサービスや学習支援なども行うためにより様々な人材を見つけなければいけないというのも特徴である。聴覚障害学生の要求が多いためコーディネータは通訳者探しに奔走したり、謝礼金をどのように確保するのかという点で、日本とほとんど変わらないように感じた。



NTIDのジョブフェア

英語のクラス

今回の英語のクラスは夏まで通っていたロチェスター工科大学の英語学校ではなく、国立聾工科大学の英語の授業を受講した。国立聾工科大学では、教員が手話で授業を行ってくれるため、これまでの授業のように手話通訳が来るか来ないかという不安を抱えることなく授業を受講できた。教員の教授方法もとてもわかりやすく、これまでに比べてより濃い内容の英語を学ぶことができた。特にライティングのクラスでは、これまで以上に細かいところを念入りにチェックしてもらうことができたため、自分の苦手な部分より強化できたように感じる。



コインランドリーで

今学期は、18単位もの授業をとっていたため、じっくりと腰を落ち着けて学習できなかったことが、とても残念である。特にライティングクラスでは、毎日ライティングの宿題が出され、それに加えて毎週のようにリーディングのクラスのテストに追われていた。これらのことから、じっくり集めた資料を読むことができなかった。また、夜遅くまで宿題やレポートに追われていた。次の学期からはもう少し時間に余裕を持たせ、自分の留学目的に向けてさらに前進していきたい。